

平成 18 事業年度

決算報告書

【第3期】

自 平成 18 年 4 月 1 日

至 平成 19 年 3 月 31 日

国立大学法人 お茶の水女子大学

平成18年度 決算報告書

国立大学法人 お茶の水女子大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	4,518	4,706	188	(注1)
施設整備費補助金	412	412	0	
補助金等収入	78	129	51	(注2)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	26	26	0	
自己収入	1,979	1,961	△ 18	
授業料及び入学金及び検定料収入	1,915	1,894	△ 21	(注3)
雑収入	64	67	3	(注4)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	410	576	166	(注5)
貸付回収金	1	1	0	
目的積立金取崩	60	0	△ 60	(注6)
計	7,484	7,811	327	
支 出				
業務費	5,580	5,554	△ 26	
教育研究経費	5,580	5,554	△ 26	(注7)
一般管理費	976	724	△ 252	(注8)
施設整備費	438	438	0	
補助金等	78	129	51	(注9)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	410	652	242	(注10)
貸付金	2	1	△ 1	(注11)
計	7,484	7,498	14	
収入 - 支出	0	313	313	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金債務を繰越したため予算額に比して決算額が188百万円増額となった。
- (注2) 国からの補助金により予算額に比して決算額が51百万円増額となった。
- (注3) 授業料及び入学金及び検定料について、予算額に比して決算額が21百万円減額となった。
- (注4) 財産貸付及び保育所の利用増加等に伴い予算額に比して決算額が3百万円増額となった。
- (注5) 国等からの共同研究等の受入れが予算額に比して決算額が166百万円増額となった。
- (注6) 経費の節約等により目的積立金を取り崩さずに業務を行い予算額に比して60百万円減額となった。
- (注7) 業務費については、経費の節減に努めたため、予算額に比して決算額が26百万円減額となった。
- (注8) 一般管理費については、経費の節減に努めたため、予算額に比して決算額が252百万円減額となった。
- (注9) 注2に示した理由により予算額に比して51百万円決算額が増額となった。
- (注10) 注4に示した理由により予算額に比して242百万円決算額が増額となった。
- (注11) 学資貸付学生の減少により予算額に比して1百万円決算額が減額となった。